



みどりの風

平成26年9月1日発行
校報 第511号
〔みどりの風 第54号〕
練馬区立関町北小学校

ある新聞記事に思う

校長 大野 泰弘

夏休みが終わり、学校に子どもたちの明るい笑顔が戻り、気持ちのよいあいさつが響いています。子どもたち一人一人は、ご家族や友達と楽しい日々を過ごし、よい思い出をつくることができたのではないのでしょうか。

しかし、この夏休み中には、広島県をはじめ、全国各地で局地的、記録的な豪雨が続き、多くの方が亡くなったり、被災されたりしました。お亡くなりになった方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆様には心よりお見舞いを申し上げます。本日は「防災の日」ですが、あらためて日々の防災意識を高めていく必要性を痛感した夏になりました。

ところで、8月19日の某新聞の朝刊に「総合学習で成績向上」、「推進校 学テ好結果」、「専門家『拡充を』」という見出しが掲載されていました。「総合学習」とは、平成10年度改訂の小学校学習指導要領で導入された「総合的な学習の時間」のことで、「学テ」とは文部科学省主催の「全国学力・学習状況調査」のことです。

かつて、OECD(経済協力開発機構)が主催する PISA 調査(生徒の学習到達度調査)で、平成12年の第1回の調査では、我が国は読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシーいずれもトップレベルでしたが、平成18年の第3回調査では、それらの結果がすべて大幅に低下しました。一昨年の第5回調査では、我が国は再びトップレベルになりましたが、当時、この調査結果に見られた学力低下の一因が「ゆとり教育」にあるとして、その象徴のように扱われたのが「総合的な学習の時間」でした。そもそも、なぜ学校教育に導入されたのかといえ、これには私見も入りますが、

21世紀の社会の変化として予想されるグローバル化、高度情報化、地球環境の問題、少子高齢化等々の課題をよりよく解決していく能力を育てる場が必要である。

教科の指導内容の壁があり、各教科で習得した内容を横断的・総合的なテーマでとらえていく学習が求められる。

知識注入型の学習だけでは、子どもたちに自ら課題を見出し、考え、主体的に行動していく能力は十分に育たず、思考力・判断力・表現力等も豊かに育たない。知識・学歴偏重だけでは、激変する社会に対応できない。

各教科等で習得した基礎的・基本的な内容をもとに、問題の解決や探究活動に主体的に取り組む態度を育て自己の生き方をよりよく考える姿勢を育てる必要がある。それにより、ニートやフリーター等の問題解決を図る。

こんなことではなかったかと思います。その中で、「総合的な学習の時間」は大きな期待と共に、教科書もない中、地域やその道の専門の方々のお力もお借りしながら手探りで始められたのです。しかし、導入当初、年間に105時間から110時間実施されていた授業時数は、今や3年生から6年生まで、各70時間にまで大幅に削減されています。

現在、20代後半の方がその第一世代に当たりますが、今世紀の社会を中心的に担っていく今の子どもたちも同じように「総合的な学習の時間」を通して養うべき資質・能力があります。「総合的な学習の時間」のねらいは、個々の課題について知識や技能だけを身に付けたり、課題自体を解決したりするのではなく、問題の解決につながる学び方やものの見方や考え方を豊かにし、既有的知識や経験を関連付けたり、比較推量したりしながら、新しい考え方や価値、意義を見出していくことにあります。学校知を実生活や実社会で活用していく点に、そのよさがあるのです。

その「総合的な学習の時間」に力を入れてきた学校は学力が高いから、「その時数を拡充したらどうか」これは、活用・探究的な活動を推進していくことが学力向上につながるという点では正論ですが、「総合的な学習の時間」の授業時数が削減されてきた経緯や正解のない社会の中で最善解を見出さねばならない子どもたちの学力を考えると、安易に授業時数を増やすとか減らすといった問題だけではないように感じられました。子どもたちの学力は、そのような単純な要因で上下するものではないからです。次の学習指導要領改訂に向けた議論も始まっているのですが、PISA 調査や全国学力・学習状況調査の結果等をもとにして、子どもの学力が上がった・下がったではなく、21世紀を生きる子どもたちに真に必要な学力は何かを確実にとらえ、そのための実践を着実にやっていく必要性を感じます。

すでに平成19年度に中央教育審議会では、いわゆる「学力の要素」を「基礎的・基本的な知識・技能の習得」、「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」、「学習意欲」と定義して、それを受けて各学校では子どもたちの「学力」を高める指導をしているのですが、本校では、「すべての学力向上の基盤は言語力育成にある」という意識をもって、9月からの国語科の授業を中心にして、各教科領域の授業の充実にさらに努めてまいります。本校の全国学力・学習状況調査の結果は、ここ数年、全国や東京都、練馬区の平均値をかなり上回っておりますが、それでも課題がある以上は、そういう結果に一喜一憂することなく、目の前の子どもの学力向上をどう図るかを念頭において、主体的に教育活動を前進させ、大事なお子様をお預かりしてまいりたいと考えています。